JASDAQ

平成１７年３月期　第３四半期財務・業績の概況（非連結）

平成 17 年 2 月 3 日

会社名　株式会社平賀　　（ＪＡＳＤＡＱコード番号：7863）
（ＵＲＬ　http://www.pp-hiraga.co.jp/　）
代　表　者　役　職　名　代表取締役社長
　　氏　　名　平賀　豊
問い合わせ先　責任者役職名　取締役管理本部長兼管理部長
　　氏　　名　中村　則丈　　ＴＥＬ：(03) 3991―4541

１．四半期財務情報の作成等に係る事項

① 会計処理の方法における簡便な方法の採用の有無　　：　有
(1) 貸倒引当金については、直前決算期の貸倒実績率等に基づき計上しております。
(2) 固定資産の減価償却費については、年間償却額の当四半期分を計上しております。
(3) 税金費用の計算方法については、簡便的な方法を採用しております。
(4) その他影響額が僅少なものについては、一部簡便的な方法を採用しております。
② 最近事業年度からの会計処理の方法の変更の有無　　：　無

２．平成 17 年 3 月期第３四半期財務・業績の概況（平成 16 年 4 月 1 日　～　平成 16 年 12 月 31 日）

(1) 経営成績の進捗状況　　（百万円未満切捨）

	売上高	営業利益	経常利益	四半期（当期）純利益
	百万円　%	百万円　%	百万円　%	百万円　%
17年3月期第3四半期	5,835（△2.0）	173（－）	186（－）	115（－）
16年3月期第3四半期	5,952（△3.5）	－（－）	－（－）	－（－）
(参考)16年3月期	7,648	272	266	132

	1株当たり四半期（当期）純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期（当期）純利益
	円　銭	円　銭
17年3月期第3四半期	31　00	―
16年3月期第3四半期	―	―
(参考)16年3月期	28　10	―

(注)　売上高におけるパーセント表示は、対前年同四半期増減率を示しております。なお、売上高以外の四半期経営成績の開示は当四半期より行っているため、前年同四半期につきましては記載しておりません。

［経営成績の進捗状況に関する定性的情報等］

当第３四半期におけるわが国経済は、個人消費の伸びが鈍化するなか、輸出や設備投資の増加など緩やかな回復基調で推移いたしました。広告業界におきましても、広告全体ではおおむね順調でありましたが、印刷業界では企業間競争による販売価格は、低下傾向のまま継続しており厳しい経営環境で推移しました。

このような状況のなか、当社におきましては、受注数量は増加したものの販売価格の回復に至らず、当第３四半期における売上高は、5,835 百万円（前期比 2.0%減）、経常利益 186 百万円、四半期純利益 115 百万円となりました。

(2) 財政状態の変動状況　　（百万円未満切捨）

	総　資　産	株 主 資 本	株主資本比率	1株当たり株 主 資 本
	百万円	百万円	%	円　銭
17年3月期第3四半期	7,154	3,610	50.5	972　07
16年3月期第3四半期	―	―	―	―
(参考)16年3月期	7,409	3,617	48.8	968　44

(注)　当四半期より四半期財政状態の開示を行っているため、前年同四半期については記載しておりません。

［財政状態の変動状況に関する定性的情報等］

当第３四半期の財政状態は、平成 16 年 3 月期と比較し総資産は、2 億 54 百万円減少の 71 億 54 百万円となりました。これは主に、売掛金が 3 億 99 百万円および原材料が 40 百万円増加し、現金及び預金が 6 億 90 百万円減少したことによります。

負債面におきましては、短期借入金等有利子負債が 4 億 50 百万円減少し、仕入債務が 1 億 88 百万円増加したことなどにより、35 億 44 百万円となりました。

株主資本につきましては、利益処分および有価証券の時価などにより、36 億 10 百万円となりました。

【キャッシュ・フローの状況】　　（百万円未満切捨）

	営業活動によるキャッシュ・フロー	投資活動によるキャッシュ・フロー	財務活動によるキャッシュ・フロー	現金及び現金同等物期　末　残　高
	百万円	百万円	百万円	百万円
17年3月期第3四半期	△135	△87	△562	1,074
16年3月期第3四半期	―	―	―	―
(参考)16年3月期	58	163	△171	1,859

(注)　当四半期より四半期キャッシュ・フローの開示を行っているため、前年同四半期については記載しておりません。

［キャッシュ・フローの状況に関する定性的情報等］

当第３半期における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）につきましては、平成 16 年 3 月期より 7 億 85 百万円減少（42.2%減）し、10 億 74 百万円となりました。

当第３四半期における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果使用した資金は、1 億 35 百万円となりました。これは主に、売上債権の増加によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は、87 百万円となりました。これは主に、投資有価証券の取得によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は、5 億 62 百万円となりました。これは主に、短期借入金の減少によるものであります。

○ 添付資料

（要約）四半期貸借対照表、（要約）四半期損益計算書、（要約）四半期キャッシュ・フロー計算書

以　上

[参　考]

［業績予想に関する定性的情報等］

当第３四半期の営業状況は概ね順調に推移しており、平成 16 年 11 月 16 日公表の通期の業績予想に変更はありません。

なお、予想値につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因により予想数値と異なる結果となる可能性があります。